

R3年7月3日(土)

テーマ：ステップ3 看護研究に役立つ統計学

講師：岩原 昭彦先生 京都女子大学発達教育学部心理学科
教授

場所：ビッグU (田辺市)

参加者：5名

ねらい：統計学の基礎を学ぶことにより苦手意識を克服することができる。また、統計学の用語を理解した上で、正しい統計処理の手法を理解することができる。



参加者は5名でほぼ、マンツーマン指導

いろいろな統計アプリはあるがエクセルで、ほとんど対応できる技を伝授!!

統計学は分析ツールだけど
思考ツールでもある

数学的な理解は後回しにしても大丈夫
概念的な理解を大切に

統計学とは

- ①その現象の記述
- ②一般化、普遍化
- ③理論化

標本の抽出、割り付け法が
重要

参加者の声

「統計が苦手でしたが、わかりやすく講義いただき、前向きに取り組んで行こうと思いました。」

「文献を読むときに意味が少し理解できたらと思いました。」

「身近な小さな疑問を少ない数字で練習してみたいです」

R3年7月3日(土)

テーマ：明日からの看護管理に自信をつけよう!!

～これからの担う看護管理者の皆さん必見～

講師：高村 昌枝先生 東京医療保健大学 和歌山看護学部
准教授 認定看護管理者

場所：看護研修センター

参加者：57名

- ねらい：
- ・看護実践者である副看護師長・主任像を描くことができる。
 - ・自己の課題に気づくとともに果たすべき役割を前向きに捉える。
 - ・看護管理者を担っていく力を高めることで自信につなげる。



個人ワーク・グループワーク・講義を交代で進めてくれた。

多くの受講者が、普段からの疑問や関わり方に悩み持ちながら研修会に参加された。

グループワークが多い中、皆さん楽しそうにワークされていたのが、印象的だった。

参加者の声

「看護が楽しい」と思ってもらえるよう、組織の一員として努力していきたいと思う。

「講義も大変聞きやすく、有意義な研修だった」

「わかりやすい内容で、ワークシートが楽しかった」

R3年7月6日(火)

テーマ：チーム力を高めるリーダーシップ

講師：上村 久子先生 株式会社メディフローラ
代表取締役

場所：看護研修センター

参加者：51名

4名が1グループとなり、2名1組や4名でのワークを実施しながらの
体験型研修



1日を通して、マイクを使用されなかった。

それでも会場の大ホール全体に聞こえる声で、講演してくれるバイタリティいっぱいの講師だった。

導入から講師の話に引き込まれ、2名・4名のワークも最初から活発だった。

2名1組、4名1組のワークの後には、その都度マイクを回して発表。時には協力員に対してもマイクが回ってきて発表するという場面もあった。



参加者の声

「話し方、手の動き、言葉の選び方など参考になる要素が本当に多かった」

「上村先生の講義はとてもグイグイ引き込まれた。明日からリーダーとして今日の研修をもとに、行動しようと思う」

皆さん、実りの多い研修だったようだ。

R3年7月17日(土)

研修番号【3】

研修会名「もう悩まない！深める倫理、使えるコミュニケーションスキル」

講師 和歌山県立医科大学保健看護学部 檜葉 雅人 先生

場所 看護研修センター（大ホール）

参加者 69名



この研修会の午前の講義では倫理の基本的な考え方や、看護が何を善い結果と考えて行為するのか、よい結果をもたらすためには何を備えるべきなのか、何をを目指すのかなど看護の専門性の追求についても学びました。また他者理解と対話のための理論についてやなぜ看護職の倫理綱領が必要なのか、看護職が社会に果たす機能とはなにかという点を考察していくことの重要性などについて講義を受けました。



午後からは事例を通してのグループワークや、グループ内でそれぞれ事例を作成し、ロールプレイではその事例に基づいて患者さん役、家族役、看護師役となり看護師は入院中の患者や家族にどのような対応をするべきか倫理的な視点や様々な観点で考察したことを発表しました。コミュニケーションスキルを向上させるためにはどのようなことを何のためにするのかを考えながら行動することの大切さをロールプレイの中で学ぶことができました。

R3年7月26日・27日(月・火)

研修番号【13】

研修会名「JNA収録DVD研修災害支援ナースの第一歩」

場所 看護研修センター(大ホール)

参加者 29名



2日間にわたり、JNA収録DVD研修が行われました。災害医療の基礎知識や災害時に求められる看護支援活動、災害時の心のケア、災害時の保健師の役割、避難所支援や病院支援など災害支援ナースとしての活動の実際が紹介されました。令和2年7月の人吉豪雨災害の災害支援では、派遣決定から活動開始までの準備、また病院支援や避難所支援活動の実際、支援活動終了の一連を通しての活動報告など、災害看護はもちろん幅広い知識を習得し、主体性、行動力、判断力を養って臨機応変に対応できること、柔軟な応援体制、災害時のシステム作りとマニュアル作成を行うことが重要であることなど、災害時に必要な情報を得ることができた研修でした。

R3年7月31日(土)

テーマ：看護補助者の活用推進のための看護管理者研修改訂版2020 DVD

ファシリテーター：稲垣伊津穂先生 名手病院

伊都 香先生 和歌山労災病院

田中 眞美先生 和歌山労災病院

上北 香好先生 日本赤十字社和歌山医療センター

吉田 千有紀先生 日本赤十字社和歌山医療センター

場所：看護研修センター（海南市）

参加者：56名

ねらい：看護補助者の活用を推進し、看護補助者業務質の向上と看護の質の向上を図る。



午前中は、DVD 視聴



DVD 視聴中の小ワークは
前後2人で



午後は、グループワーク
発表は、ファシリテーター
の方が、してくれるので
活発な意見交換でした。

参加者は、「多くのヒント
が得られ、実践していきたい。」と感想!!